

一日一生

経営トップ講義 @県立大 「ビジネス経済の実践」要旨

⑩



「夢を持ち、潜在意識を刺激して力を出そう」と語る橘高社長
県立大佐世保校（山口隆行撮影）

橘高代表取締役社長

きったか よしかず
橘高 克和氏

私は佐世保出身で高校を卒業後、東京の大学を出て商社に8年ほど勤めた。東京勤務で苦労したのは通勤だった。列車で毎日1時間半近くかかった。車内で山岡荘八の「徳川家康」の文庫26巻を8回読んだ。その考え方は今の行動規範になっている。家康は「人の一生は重き荷物を持つて歩むがごとし」と言っている。私も苦勞はあったが、この言葉を出し頑張ろうと思えた。人間の心は放っておくと雑草が生える。読書の習慣は大事だ。

会社は、佐世保鎮守府があった明治36（1903）年に私の曾祖父が広島県福山市から海軍御用達の船具商として創業した。創業114年目で私は4代目の社長になる。現在は建築会社が住宅を建てる際に、システムキッチンやユニットバスといった住宅設備機器などを販売している。私たちの会社は経営計画を

役員で決めるが、社員がベクトルを合わせるために全社員で1泊2日の合宿をして個人の目標を定めた「チャレンジングシート」を作っている。そして計画がどこまで達成できたかを毎月発表している。なぜ計画を立てる必要があるのか。「将来自分がこのようになりたい」という目標に向かい、毎月ごと、毎週ごと

に計画を作りスケジュール管理をして、できたことを確認するためだ。達成できたときに消す作業は目標に近づいたようであらう。これを続けなければ、いい人生が送れるのではないだろうか。目標や夢を持つことは大事だ。本当にしたいことを真剣に考えてほしい。そうすれば信念と暗示が生まれ、それが力を与えてくれる。信念や暗示は潜在意識だ。氷山に例えると海面から出ている顕在意識はわずか13分の1だ。潜在意識は無数の可能性を秘めている。私も目標を設定して紙に書き、毎日声に出して読み、行動を継続し、達成したときのことをイメージして自分を信じる。これが飛躍の源泉だと思ふ。夢を持ち、潜在意識を刺激して力を出そう。私は40社でつくる佐世保卸

団地協同組合の理事長を務めている。組合は昨年設立50年を迎えた。レストラン「庄屋」、居酒屋「雑魚屋」を経営するフードプラス・ホールディングスや、スーツケースのインターネット販売で全国屈指の企業に成長したクギマチなど面白い企業がある。ほっとも「と」で知られるプレナス創業の地でもある。できれば地元長崎県で就職してほしい。佐世保市は、野村総研が国内100都市を対象とした「成長可能性ランキング」で10位に入った。特に「多様性を受け入れる風土」が3位と高かった。私の先祖も広島からやってきた。皆さんのような若い人に残ってもらえれば佐世保は発展すると思ふ。計画を立てて、毎日は計画に基づいた1日であることを意識すれば日ごろの行動が変わる。ぜひ健康に注意して充実した日々を送ってほしい。（西村伸明）

目標や夢持つこと大事

次回（26日）に掲載します